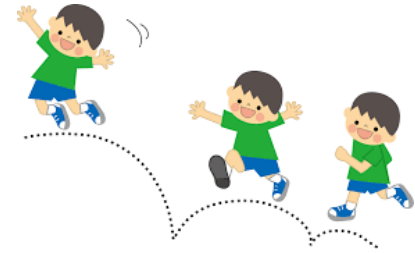


HOP STEP JUMP



課題を克服して成績アップを目指す

2学期中間テストが昨日、11月15日（水）に行われました。学校で行っている「定期テスト」は、自分の課題が一目で分かり、成績アップにつながるヒントがたくさん隠れています。テストが終わると誰もが気を抜いてしまうものですが、どのようにテスト問題を見直すかで、学習内容の理解度が変わります。テスト結果から、「何が正解か見る」だけでは、問題を覚えていないので思い出しようもありませんし、「答案用紙に正解を書き写す」だけは、内容の理解ができていないことになります。では、どんな見直し方が良いでしょう。それは、「分からないところをどう解けば良いのかチェックする」ことです。

次の4つのポイントを参考にして、テスト問題の見直しをしてみましょう。

ポイント1：「間違えた・できなかった問題の原因を分析する。」

テストの間違いには、大きく分けると「3つのできない」があります。

- ①全く分からない。
- ②見たことはあるができない。
- ③ケアレスミス

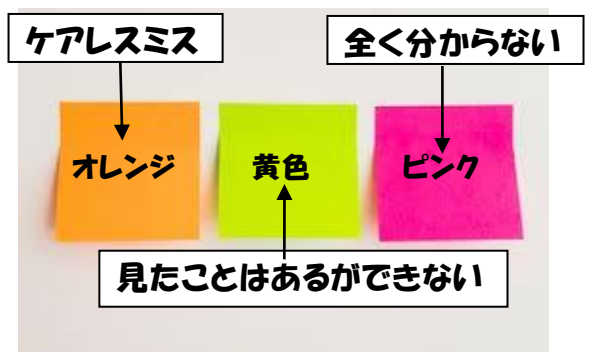


全く分からない問題はすぐに自分で分かりますが、「見たことはあるができない」と「ケアレスミス」の見分け方が分からない人もいます。「ケアレスミス」の判断の仕方は、「合っていると思っていたのに間違えたもの」です。例えば、選択肢A・Bで悩んで、Aと解答したが正解はBだった場合は、「ケアレスミス」ではなく「覚え直しが必要な問題」になります。解答を見て、次回から解けると思える問題はケアレスミスではなく、「見たことはあるができない問題」に分類されます。

ポイント2：「付箋に同じ間違いを繰り返さないための注意点を書き出す。」

テストで同じ間違いを繰り返さないために、何に気をつければ良いのか、問題を解く鍵となる言葉を書き出すことも大切です。例えば、ポイント1にある「3つのできない」に対して3色の付箋を用意してみましょう。

例えば、「ケアレスミスで間違えた場合」は、「計算ミス。＋を忘れずに」や「もったいない！」など、二度とミスしないための注意点をメモしたりしましょう。また、「見たことはあるができなかった問題」や「全く分からない問題」の場合は、まず、解説や教科書などにある「この問題を解くにあたって一番重要な



こと」や、その問題を解くための第一歩となる、公式や法則やその問題が該当する教科書・問題集の「章のタイトル」などをメモしたりしましょう。

付箋に書き出した注意点は、ノートに1冊用意して、間違えた問題文を書き写し、その横に貼り付けたりすると、見直しする時に役立ちます。

ポイント3 「足りない部分をなくす。」

一番やってはいけないのは、解答や解説を読んで分かったつもり、勉強したつもりになる事です。重要なことは、あやふやではなく知識を確実なものにすることです。まず、単純な計算ミスや書き間違いなどの「ケアレスミス」は、すぐに解き直して再確認しましょう。解き直し専用のノートを作成したり、見直しで見つかったミスの傾向をリストにして、問題用紙にまず書くようにしたりすることもおすすめです。「全く分からない」「見たことはあるができない」問題は、解説だけ見て分かったつもりだと似た問題が出た時に、同じ間違いをする可能性が大きいので、誰かに教えることを意識して、初めて聞いた人にも分かる解説ができるようになると、学習内容は確実に身に付いていることにつながります。

ポイント4 「自分の力で解き直す。」

ここまでのステップを踏んだ後に、何も見ないで問題に挑戦してみましょう。解き直しは1回ではなく、数日置いてもう一度やればより効果的です。テスト問題の見直しは、テストが終わった直後の記憶が鮮明なうちに2回、テストが返された後にもう一度見直しができるとういでしょう。

3年生へのアドバイス②

三者懇談が終わったこの時期に、「受験生」がやっておくべき勉強があります。それは、「入試に照準を合わせた勉強」の中の「分野別問題集を解く勉強」と「総合問題を解く勉強」です。



「分野別問題集」とは、英語の文法や長文の問題集、数学の計算問題や図形の問題を集めた問題集のことです。例えば、歴史では、これまで時代順に單元ごとの勉強をしてきたことでしょう。しかし、入試問題では時代の区分に関わらず出題されるので、問題を解いているときに「鎌倉時代の文化だったかな」「平安時代の文化だったかな」と、このような混乱が起こることがあります。このようなことにならないためにも、入試本番を迎えるまでに、文化なら文化についてまとめて勉強し直す必要があるのです。

「総合問題を解く勉強」は言うまでもありませんが、入試問題を解く練習になるからです。特に重要なのが、英語や国語のような文章が出題される教科で、「教科書にない文章」の問題を解くことです。読解力が十分でない人は、入試で出題されるような「初ものの文章」に弱いと言われます。定期テストでは、授業で習った内容（文章）がそのまま出題されることがほとんどですから、文章をよく読まなくても内容が分かっています。しかし、これは真の読解力ではないので入試では通用しません。「初ものの文章」をたくさん読んで、読解力をつける練習をすることが大切です。だからこそ、「読書」は大切なのです。また、学校で使っているワークブックや市販の問題集に関わらず、ほとんどの問題集には、巻末に総合問題が収録されています。秋以降はこうした問題をたくさん解くことで、「総合力」が高められます。